

様式

「第２期宗像市自殺対策推進計画（案）」に関する市民意見提出手続の意見及びその回答

箇所	意 見	対応	回 答
P9	子ども・若者の自殺が増え続けている、福岡県では、令和５年子どもの自殺で女性の自殺が急激に増えた。宗像市では、30代の男性が増えている。自死に至るまでに赤ちゃんの時からいろいろな体験や経験を通して、人とのかかわり方を学び、しなやかに生きられる心と体を作っていかなければならない。その基本は、子ども家庭庁が「はじめの100ヶ月ビジョン」で提言している周りの人との愛着形成とあそびの重要性である。 P76の親子の愛着形成支援に子育ての始まるの時期に仲間作りと赤ちゃんの扱い方、関わり方、また、赤ちゃんを真ん中に家族になって行くときの夫婦のコミュニケーションなどもテーマの一つとして、丁寧にお伝えするセミナーで、虐待予防にも寄与している「はじめのはじめのいっぽセミナー」（現在、人づくりでまちづくり事業で実施中）を採択してほしい。 子ども・若者（30歳台まで）支援センターが必要。 子どもの頃から子育て中の親や子と自然な形で交流できる拠点があると良いなと思う。宗像市の利便性の良い場所（真ん中）に、そういう拠点が欲しい。 子育てが始まって、赤ちゃんを真ん中に関係性が複雑になっていく事なども、事前に知っていることで、家族になっていく過程が理解しやすいと思う。産前の教育には、そういった内容も盛り込む必要があると思うし、気軽に相談し合えるコミュニティが構築しやすい場が必要だと思う。現在、プレーパークに若い父親が来て、そういった声を聴くことが増えた。育休をとっている父親も結構悩みがあることを知ってほしい。 佐賀市の青少年センターには、行政の担当課と警察関係の相談窓口と就労も含む福祉関係の相談窓口があって、青少年を健全に育む仕組みがある。参考にしてほしい。	原案通り	自殺の背景には、さまざまな社会的要因があり、その対策として、幅広い関連事業や取り組みを進めることが必要であると考えております。 「子ども・若者」に関する施策につきましては、特に力点を置いて取り組むべき施策の1つと位置づけております。具体的な事業や取り組みにつきましては、現在策定中の「宗像市こども計画」等にもとづいて進めて参ります。